

【教科】道徳

【学習者】5年 2組 30名

【授業者】佐藤 瑠莉

【授業日】令和7年9月20日(土) 2校時

【主題名】

公正・公平な社会とは

【資料名】

わたしとあなたの「ふつう」はちがう

【ねらい】

みんなが感じている「ふつう」について考え、一人一人の違いを理解して尊重することの大切さに気づき、公正・公平な態度で接する実践意欲と態度を育てる。

九月二十日

わたしとあなたの「ふつう」はちがう

「ふつう」とは、なんだろう？

- ・当たり前のこと。・いつも通りのこと。・みんなと同じこと。

生活の中にある「ふつう」

- ①自分の呼び方
- ②好きな色
- ③着ている服
- ④好きになる人

いろいろな人から見た「ふつう」

- ・国のちがい
- ・仕事のちがい
- ・体や性別のちがい
- ・年れのちがい

改めて…

「ふつう」は全員同じ？

- ・人によって「ふつう」の感覚がちがう。
- ・住んでいる場所や環境で「ふつう」が変わる。
- ・人によってちがうから、自分の「ふつう」を押し付けないようにしたい。

振り返り

○「ふつう」がちがうみんなと幸せに生きていくために大切なことは？

○どのようなことを意識して生活していく？

内容項目

C 公正・公平・社会主義

【本時のねらい】

誰でも一人一人が違うことを理解し、誰に対しても公正・公平な態度で接することについて自分との関わりで考える。

【本時の評価規準】

一人一人の違いを認め、互いに尊重し合って生きていくことの大切さに気づき、自分との関わりで行動を考えることができるか。

まとめ	展開	導入	学習過程
5. 本時の学習を振り返り、今後、どのように生活していきたいか考える。	3. 様々な立場から見たときの「ふつう」について考える。 4. 「ふつう」とはどのようなことが改めて考える。	1. 「ふつう」とはどのようなことか考える。 2. 生活の中にある「ふつう」を振り返る。	学習活動
10分	25分	10分	時間
(発言、ワークシート) ☆互いに尊重し合って生きていくことの大切さに気づき、自分の行動を考えている。	・最初に考えた「ふつう」と比較しながら考えさせる。 ・自分の「ふつう」を他者に強要するものではないことを押さえる。	・普段の生活の中で無意識に「ふつう」を決めていることに気がさせる。 ・資料を活用し、立場によって「ふつう」の捉え方が変わることになり、気づかせる。	・指導上の留意 ☆評価方法(観点)